

令和 4 年 5 月 26 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02382

研究課題名（和文）近世統一政権の成立と天下普請の展開 中近世移行期史料の研究資源化を通じて

研究課題名（英文）Establishment of a Unified Government in the Early Modern Period and Development of Tenka Fushin (castle construction)

研究代表者

及川 亘 (Oikawa, Wataru)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：70282530

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,000,000円

研究成果の概要（和文）：本科研では織田信長から豊臣秀吉、徳川家康・秀忠・家光に至る天下人が諸大名を動員して行った天下普請（城郭建設）に関連する史料を広く調査・収集、分析を行った。研究成果は代表者・分担者が個別に論文・著書の形で公表した他、科研研究会での口頭報告をもとに『近世統一政権の成立と天下普請の展開』（2022年3月）を刊行した。特に名古屋城については、「名古屋御城石垣絵図」の慶長15年（1610）作成のオリジナルを発見、学界で紹介するとともに、併せてこれまで知られていなかった関連文書を発掘し、名古屋城の研究に貢献した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本科研研究会での口頭報告を元に編んだ『近世統一政権の成立と天下普請の展開』では織豊政権から徳川政権までを見通して、天下人による城郭建設には軍役によるものと百姓役によるものがあることを明示し、両者の違いを考えるべきことと、これまでに見落とされている無年号文書を最大限活用すべきことを提言している。前者は近世統一政権の本質に関係するにもかかわらず従来あまり自覚されてこなかった論点であり、後者は具体的な経過が分かりにくい近世初期の城郭建設の研究にとって重要な論点である。また名古屋城に関する研究成果は、観光資源として現代社会の資産でもある近世城郭の歴史研究を一般社会に還元するものでもある。

研究成果の概要（英文）：At this research, we conducted a wide range of research, collection, and analysis of historical materials related to Tenka Fushin (castle construction), which Tenka-bitō, from Nobunaga Oda to Hideyoshi Toyotomi, Ieyasu Tokugawa, Hidetada Tokugawa and Iemitsu Tokugawa, carried out by mobilizing various daimyo. We individually published the research results in the form of papers and books. In addition, we published "Establishment of a Unified Government in the Early Modern Period and Development of Tenka Fushin (castle construction)" (March 2022), which is based on oral reports at the research meetings. Especially for Nagoya Castle, we discovered the original "Nagoya-oshiro Ishigaki Ezu" drawn in 1610 and introduced it to the academia, and at the same time, found out a lot of document historical materials related to Nagoya castle that had not been known until now. It greatly contributed to the research of Nagoya Castle.

研究分野：日本史

キーワード：天下普請 公儀普請 軍役 名古屋城 統一政権 織田信長 豊臣秀吉 徳川家康

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

16 世紀後半から 17 世紀前半の日本史における中近世移行期は、その前後で史料の残存状況に大きな違いがあり、中世史研究と近世史研究の間では、研究資源である史料の利用環境に隔たりがあることを否定できない。例えば、自治体史の史料編の編纂に即して言うと、中世編までは史料を網羅的に蒐集・採録するのに対して、近世編では主要史料をサンプル的に採録するに止まる場合がほとんどである。一方で中世史研究においても近世初頭以降の家譜・系図類などの編纂史料が重要なものとして認識されるようになってきている。近世初頭以降の史料を広範に調査・蒐集し、利用可能な研究資源として充実させることは中近世移行期の研究にとって急務である。

こうした中近世移行期の史料研究の課題に応えるためには共通するテーマのもとに広範囲の史料を横断的に調査・分析し、研究資源化するという手法が考えられるが、そのテーマとしては戦国大名から近世の幕藩大名に共通した課題である軍役が考えられる。

2. 研究の目的

織豊政権を経て徳川政権に至って完成を見た近世の統一政権は、諸大名に軍役を課すことで武威による支配を貫徹したが、徳川氏の最終的な勝利で大規模な戦争がなくなった後でも、天下普請という土木工事の形で軍役は課され続けた。そこで本研究では、中近世以降期に共通するテーマとして軍役の中でも特に普請に着目し、膨大に存在する諸大名家史料を中心として普請関係史料を横断的に調査・分析し、それらの研究資源化を通じて、戦国大名の普請から天下普請への展開を中近世移行期の政治過程に総合的に位置付け、併せて統一政権と大名の関係のみならず大名家相互の関係や、各大名家内部における普請工事実施の具体像を複合的に明らかにすることによって、天下普請の全体像を立体的に復元することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究は、具体的には下に掲げる(1)～(4)を柱として遂行した。

(1) 史料の原本調査・撮影：東北歴史博物館・仙台市博物館・山口県文書館・柳川古文書館・熊本大学などにおいて天下普請関連史料を中心として中近世移行期史料を原本調査・撮影する。調査対象は文書・記録など文献史料だけでなく、絵図や指図といった画像史料にも目を配る。撮影は原則として東京大学史料編纂所で策定されている基準に基づいてデジタル撮影を行う。自写不可能な場合は写真プリントの購入などで対応する。撮影画像は史料編纂所の史料画像デジタル化進捗管理システムによって管理し、同所閲覧室で公開する。

(2) 関連史料の刊本よりの抽出：研究協力者の雇用により、『大日本古文書』家分け文書などから天下普請関連史料を抽出し、目録化する。

(3) 『大日本古記録 梅津政景日記』のフルテキストデータベース化：17 世紀前半の基本史料の一つである『大日本史料 梅津政景日記』を東京大学史料編纂所古記録フルテキストデータベースで公開する。

(4) (1)～(3)の研究活動をもとに科研研究会を開催し、得られた知見を共有するとともに、研究の進捗状況を確認する。また論文などの形で成果を随時公表する。

4. 研究成果

本研究の主な研究成果は、次の(1)～(4)にまとめることができる。

(1) 本研究における史料調査の件数は 15 件(撮影コマ数 6000 コマ余)で、2019 年度から 2020 年度にかけて Covid-19 感染症流行の影響もあって、計画通りに調査が進まない時期もあったが、そのうち特記すべきものとして、靖國神社遊就館所蔵「名古屋御城石垣絵図」とそれに関連する各所蔵機関(宮内庁書陵部・名古屋市蓬左文庫・名古屋城など)での調査がある。慶長 15 年(1610)の名古屋城天下普請に関する絵図は、これまでも「名古屋御城石垣絵図」・「名古屋城普請町場請取絵図」という名称で数種の写本が知られていたが、慶長 15 年のオリジナルの絵図は所在不明であった。たまたま本絵図の存在を所蔵館の担当者からご教示いただき、科研として借用の上、撮影・熟覧したところ、本絵図が慶長 15 年のオリジナルの絵図であることが判明した〔及川 2019b〕。併せて関連史料の調査を進め、これまで刊本に収録されていながらも、どの城郭建設に関連するものか判明していなかった史料の中から、慶長 15 年の名古屋城普請に関するものを新たに「発見」した〔及川 2019a・同 2022b〕。これらの成果は、熊本大学永青文庫研究センターによる熊本大学所蔵「松井家文書」の調査とともに、名古屋城調査研究センター他主催のシンポジウム「史料が語る 名古屋城石垣普請の現場」(2021 年 12 月、於名古屋銀行協会、その模様は 2022 年 2 月より YouTube 名古屋城公式チャンネルにおいて動画配信)につながり、オリジナルの「名古屋御城石垣絵図」と関連史料の読解を通じて名古屋城に関する研究を一段階進めることに貢献した〔及川 2022a〕。

(2) 本研究は文献史学を基礎として遂行したものであるが、その活動は城郭プロパーの研究者の知るところとなり、研究代表者・及川と研究分担者・黒嶋が日本城郭史学会大会(2021年4月25日、於板橋区グリーンカレッジホール、本来2020年4月に開催予定であったものがCovid-19感染症流行の影響により2021年に順延)に招待され講演を行った。講演題目は以下の通りである。

及川 亘 「公儀御普請」 現場監督する大名
黒嶋 敏 織田信長の二条城普請

及川報告は公儀普請(天下普請)の軍役としての本質を再評価したものであり、黒嶋報告は織田信長による二条城普請の経緯や規模を考察したものである。両報告の内容は『城郭史研究』第41号(2022年12月刊予定)に掲載予定であるが、黒嶋報告については既に一部が黒嶋単著『天下人と二人の将軍』[黒嶋2020]に活かされており、織田信長が足利義輝のために建設した二条城を近世城郭の祖型の一つとして評価し、近世城郭の成立について一石を投じている。

(3) 17世紀前半の基本史料である『大日本古記録 梅津政景日記』(全9巻、秋田藩家老梅津政景の日記、慶長17年~寛永10年)を東京大学史料編纂所古記録フルテキストデータベース上で一般公開し、全文検索を可能にした。

(4) 科研研究会での口頭報告をもとに『近世統一政権の成立と天下普請の展開』(東京大学史料編纂所研究成果報告2021-18、全188頁、2022年3月)を刊行した。各論文の表題は以下の通りである。(掲載順)

金子 拓 織田信長による天正四年の洛中普請
黒嶋 敏 天下普請としての秀吉の造船 文禄の役の『水軍』『御渡海』『日本丸』
及川 亘 「坊所鍋島家文書」に見る公儀普請
小宮木代良 元和度の江戸城本丸天主台普請と広島浅野家
森下 徹 天下普請における萩藩の人足調達
立石 了 柳川藩立花家家臣「十時(強次郎)家文書」に見る石場普請の肝煎役
山本一夫 柳川古文書館寄託「伝習館文庫 小野文書」および同館寄託「佐田家文書」の公儀普請関係史料の概要

本書では天下普請(公儀普請)について、いくつかの重要な論点が提示できたと考える。

先ず、金子論文や森下論文では、天下人の実行する普請には武士(大名)に課される場合と百姓が徴発される場合の二系統があることが示された。天下普請(公儀普請)による城郭建設は、天下人が諸大名に軍役として課すものであることは古くから言われていることであり、一方で「千石夫」が課される場合もよく知られている。一般的に「千石夫」は国役の一種と理解されており、軍役とは異なる。この違いについては従来あまり注意されてこなかったのであるが、金子論文からはそれら二系統の普請の在り方がすでに信長の時代にも見られるということが分かり、森下論文ではそれらが石垣普請とそうでない土木工事といったように工事の種類に対応しているということが指摘された。天下人が大名に課した賦課がどのように領内に転嫁されるかということも様々な大名の例を集めて比較検討する必要があるが、天下人は二系統の普請を場合によって使い分けながら、天下普請を展開していったのである。それらがどのような論理に基づいて使い分けられるかというのは統一政権の権力の在り方と直接関わるものであり、今後もっと自覚的に考察する必要がある。

黒嶋論文では、秀吉が短期間に大船を建造することができたのは、秀吉という一人の天下人のもとに軍役賦課体系が作り上げられていたからであるとし、その体系の下で常に複数の軍役賦課が進行していた状況で、軍役賦課の案分については、負担が賦課される要因、免除される要因を総合的に検討することが今後の課題とされている。軍役をいつ、だれに、どのように賦課するかという政権の意思決定の在り方が課題となるのは、徳川政権の城郭建設についても同様であり、及川論文はそのための基礎作業の一つであるが、今後事例を一つ一つ積み重ねながら、軍役賦課相互の関係性も含めて天下普請全体の文脈の中で考えて行かなければならない。

そのような意味で、小宮論文・立石論文・山本論文は一次史料に基づいた事実の積み重ねの重要性を示したものである。小宮論文は元和期の江戸城天主建設の開始時期と完了時期を確定したもので、江戸城の建設過程という歴史研究者や城郭マニアのみならず一般市民にも興味深く感じられるような事柄でも、必ずしも正確に分かっておらず、曖昧な部分が残っている場合が多々ある。江戸城に限らず近世初期の城郭の計画・建設の過程については具体的に分からないことが多いが、しかしそれは単に史料が存在しないというだけではなく、一次史料の読解に問題があったり、そもそも扱われるべき一次史料がそのまま気付かれずに埋もれていることがあるといったところにも要因がある。

以上の課題全てに完全に答えることは困難であるが、共通するのは、中世後期~近世前期の一次史料の中心となる無年号文書を正確に読み、改めて天下普請の全体の流れの中に位置付けを与える作業が必要ということである。そのような問題意識から、本科研では既刊の史料集から普請関係の史料をリストアップし、既に年次比定がされている場合でも再点検するという作業を始めた。史料編纂所刊行の『大日本古文書』・『大日本近世史料』を主として、『佐賀県史料集成』・『柳川市史』など関連史料が多く収録されている自治体史についても対象とした。一通りの作業を進めてみたところ、『大日本古文書』は古い時期の編纂も多く、年次比定がされていなかった

り、年次比定されていても誤っている場合が散見された。そのためリストアップした史料の再点検と整理には予想外の時間を要し、結果として本研究期間内には完了することは出来なかった。

以上(1)～(4)の研究成果の中で残された課題に対処するために、2022～2024年度の3年間の計画で後継の科研、基盤研究C「徳川政権による公儀の確立と城郭建設 無年号文書から公儀普請を読み解く」(研究代表者・及川亘)を申請し採択された。この研究は、徳川家康・秀忠・家光が諸大名を動員して実施した天下普請(公儀普請)による城郭建設に関連する慶長・元和・寛永期の無年号文書の研究資源化を通じて、個別の天下普請における幕府の意思決定のあり方、諸大名の対応、大名相互の関係について新知見を得るとともに、それぞれの城郭建設を相互に関連するものとして政治・社会史の文脈上に位置づけ、徳川政権が自らの公儀を確立する過程における天下普請の実態と意義を解明することを目的とする。

<参考文献>

- 及川亘、現場監督する大名 多久家文書にみる公儀普請、小宮木代良編『近世前期の公儀軍役負担と大名家 佐賀藩多久家文書を読みなおす』、岩田書院、pp11-41、2019a
同、靖國神社遊就館所蔵「名古屋御城石垣絵図」について、東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信、第87号、pp10-18、2019b
同、「名古屋御塩石垣絵図」を読む、名古屋城調査研究センター編『史料が語る 名古屋城石垣普請の現場』(名古屋城調査研究報告3、資料調査報告書1) pp45-61、2022a
同、「坊所鍋島家文書」に見る公儀普請、及川編『近世統一政権の成立と天下普請の展開』(東京大学史料編纂所研究成果報告2021-18) pp51-120、2022b
黒嶋敏、『天下人と二人の将軍 信長と足利義輝・義昭』、平凡社、全255頁、2020

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計31件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 及川 亘	4. 巻 3
2. 論文標題 「名古屋御城石垣絵図」を読む	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 名古屋城調査研究報告「史料が語る 名古屋城石垣普請の現場」	6. 最初と最後の頁 45-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 及川 亘	4. 巻 2021-18
2. 論文標題 「坊所鍋島家文書」に見る公儀普請	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究成果報告「近世統一政権の成立と天下普請の展開」	6. 最初と最後の頁 51-121
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 及川 亘	4. 巻 2020-5
2. 論文標題 「坊所鍋島家文書」に見る鍋島勝茂等の慶長・元和期の居所と行動について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究成果報告「坊所鍋島家文書未刊分 鍋島道虎関係」	6. 最初と最後の頁 132-182
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 金子 拓	4. 巻 2021-18
2. 論文標題 織田信長による天正四年の洛中普請	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究成果報告「近世統一政権の成立と天下普請の展開」	6. 最初と最後の頁 10-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒嶋 敏	4. 巻 2021-18
2. 論文標題 天下普請としての秀吉の造船 文禄の役の「水軍」「御渡海」「日本丸」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究成果報告「近世統一政権の成立と天下普請の展開」	6. 最初と最後の頁 25-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒嶋 敏	4. 巻 40
2. 論文標題 戦国期の阿武隈湊と巨理家宿老涌沢氏	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 青山史学	6. 最初と最後の頁 93-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 黒嶋 敏	4. 巻 886
2. 論文標題 足利義昭の代始め徳政	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 21-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小宮 木代良	4. 巻 2021-18
2. 論文標題 元和度の江戸城本丸天主台普請と広島浅野家	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究成果報告「近世統一政権の成立と天下普請の展開」	6. 最初と最後の頁 121-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森下 徹	4. 巻 2021-18
2. 論文標題 天下普請における萩藩の人足調達	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究成果報告「近世統一政権の成立と天下普請の展開」	6. 最初と最後の頁 134-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森下 徹	4. 巻 244
2. 論文標題 武家奉公人の立場から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史科学	6. 最初と最後の頁 28-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 立石 了	4. 巻 2021-18
2. 論文標題 柳川藩立花家家臣「十時(強次郎)家文書」に見る石場普請の肝煎役	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究成果報告「近世統一政権の成立と天下普請の展開」	6. 最初と最後の頁 150-160
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本一夫	4. 巻 2021-18
2. 論文標題 柳川古文書館寄託「伝習館文庫 小野文書」および同館寄託「佐田家文書」の公儀普請関係史料の概要	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究成果報告「近世統一政権の成立と天下普請の展開」	6. 最初と最後の頁 161-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 及川 亘	4. 巻 87
2. 論文標題 靖國神社遊就館所蔵「名古屋御城石垣絵図」について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信	6. 最初と最後の頁 10-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小宮木代良	4. 巻 1
2. 論文標題 江戸幕府右筆所日記について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 佐藤孝之他編『近世・近現代 文書の保存・管理の歴史』勉誠出版	6. 最初と最後の頁 14-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子拓	4. 巻 1
2. 論文標題 戦国大名の文書と天下人の文書	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 小嶋道裕他編『古文書の様式と国際比較』勉誠出版	6. 最初と最後の頁 105-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒嶋敏	4. 巻 87
2. 論文標題 伊達輝宗文書の基礎的研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 古文書研究	6. 最初と最後の頁 23-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒嶋敏	4. 巻 988
2. 論文標題 織田信長と銀山・撰銭令	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 20-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石津裕之	4. 巻 278
2. 論文標題 近世における神社と門跡の関係 祇園社と青蓮院・妙法院を事例として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ヒストリア	6. 最初と最後の頁 49-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森下徹	4. 巻 1
2. 論文標題 蔵屋敷から見る民衆世界	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 塚田孝編『シリーズ三都 大坂巻』東京大学出版会	6. 最初と最後の頁 49-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森下徹	4. 巻 1
2. 論文標題 岩国藩大坂蔵屋敷の設置と都市社会	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 馬学強他編『中日城市研究論集』商務印書館	6. 最初と最後の頁 49-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 及川 亘	4. 巻 H-27
2. 論文標題 現場監督する大名 多久家文書にみる公儀普請	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 岩田書院ブックレット 近世前期の公儀軍役負担と大名家 佐賀藩多久家文書を読みなおす	6. 最初と最後の頁 11-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 及川 亘	4. 巻 H-27
2. 論文標題 鍋島勝茂自筆文書の特徴 形態と封式を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 岩田書院ブックレット 近世前期の公儀軍役負担と大名家 佐賀藩多久家文書を読みなおす	6. 最初と最後の頁 108-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 及川 亘	4. 巻 29
2. 論文標題 佐竹義宣の鷹狩と本多正純事件	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究紀要	6. 最初と最後の頁 32-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小宮木代良	4. 巻 H-27
2. 論文標題 明清交替情報と佐賀藩の長崎番役	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 岩田書院ブックレット 近世前期の公儀軍役負担と大名家 佐賀藩多久家文書を読みなおす	6. 最初と最後の頁 77-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小宮木代良	4. 巻 H-27
2. 論文標題 肥前杵築郡白石地域と鍋島勝茂	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 岩田書院ブックレット 近世前期の公儀軍役負担と大名家 佐賀藩多久家文書を読みなおす	6. 最初と最後の頁 128-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤孝之	4. 巻 H-27
2. 論文標題 「御上洛」情報の真偽	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 岩田書院ブックレット 近世前期の公儀軍役負担と大名家 佐賀藩多久家文書を読みなおす	6. 最初と最後の頁 118-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子拓	4. 巻 H-27
2. 論文標題 戦功書上・家譜および「地域的軍記」から見る大坂の陣の佐竹家	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『戦国軍記・合戦図屏風と古文書・古記録をめぐる学際的研究』	6. 最初と最後の頁 125-138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 MORISHITA Toru	4. 巻
2. 論文標題 Le Japon premoderne :une societe de statuts.Reflexions sur quatre decennies de debats	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Histoire et Economie Societe	6. 最初と最後の頁 4-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森下徹	4. 巻 4
2. 論文標題 近世大坂研究の軌跡と展開	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 都市史研究	6. 最初と最後の頁 84-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子拓	4. 巻 53
2. 論文標題 長篠の戦い後の織田信長と本願寺	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 白山史学	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子拓	4. 巻
2. 論文標題 織田信長と東国	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 群馬県立歴史博物館企画展『織田信長と東国』図録	6. 最初と最後の頁 106-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計28件 (うち招待講演 17件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 及川 亘
2. 発表標題 「公儀御普請」 現場監督する大名
3. 学会等名 日本城郭史学会 令和三年度大会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 及川 亘
2. 発表標題 「名古屋御城石垣絵図」を読む
3. 学会等名 名古屋城調査研究センター等主催シンポジウム「史料が語る 名古屋城石垣普請の現場」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 黒嶋 敏
2. 発表標題 織田信長の二条城普請
3. 学会等名 日本城郭史学会 令和三年度大会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石津 裕之
2. 発表標題 近世前中期における宮門跡の序列と天皇・院の養子・猶子
3. 学会等名 朝幕研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 金子拓
2. 発表標題 織田信長と近江
3. 学会等名 野洲市歴史民俗博物館歴史講座「信長・秀吉・家康と近江」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金子拓
2. 発表標題 織田信長と明智光秀
3. 学会等名 藤枝市郷土博物館講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 黒嶋敏
2. 発表標題 伊達氏と京都の幕府 奥州探題への道
3. 学会等名 伊達市歴史文化講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 黒嶋敏
2. 発表標題 アジアの中の島津義久・義弘
3. 学会等名 鹿児島県歴史資料センター黎明館講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 及川巨
2. 発表標題 靖国神社遊就館所蔵「名古屋御城石垣絵図」について
3. 学会等名 天下普請科研研究会（東京大学）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 金子拓
2. 発表標題 天正四年における織田信長の洛中普請について
3. 学会等名 天下普請科研研究会（福岡県柳川市）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金子拓
2. 発表標題 武功書上・家譜と『地域的軍記』の成立 大坂の陣における佐竹氏の場合
3. 学会等名 東京大学史料編纂所国際研究集会「合戦のイメージから実像を考える」（東京大学）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 黒嶋敏
2. 発表標題 Awareness of Borders in Medieval Japan
3. 学会等名 Tagung "Core, Periphery, Frontier - Spatial Patterns of Power "（ボン大学）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 黒嶋敏
2. 発表標題 「今井宗久書札留」にみる織田信長と銀山
3. 学会等名 天下普請科研研究会（福岡県柳川市）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 黒嶋敏
2. 発表標題 天下普請としての秀吉の造船
3. 学会等名 天下普請科学研究会（東京大学）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 黒嶋敏
2. 発表標題 第一尚氏期首里の外港を探る 画像史料の再検討から
3. 学会等名 中世学研究会大会「琉球の中世」（東京大学）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 黒嶋敏
2. 発表標題 大航海時代の村上海賊と琉球・アジア
3. 学会等名 日本遺産パートナー養成講座（愛媛県今治市）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 黒嶋敏
2. 発表標題 歴史的な見方、歴史学的な見方
3. 学会等名 東京学芸大学附属高等学校「探究活動」（東京学芸大学附属高校）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 黒嶋敏
2. 発表標題 琉球王国と薩摩島津氏 天下統一の時期を中心に
3. 学会等名 法政大学沖縄文化研究所総合講座「沖縄を考える」(法政大学)(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 立石了
2. 発表標題 立花家重臣十時家の公儀普請関係史料の概要
3. 学会等名 天下普請科研究研究会(福岡県柳川市)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森下徹
2. 発表標題 岩国藩大坂蔵屋敷の成立
3. 学会等名 イェール-OCUジョイントセミナー(イェール大学)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森下徹
2. 発表標題 岩国藩大坂蔵屋敷の設置と都市社会
3. 学会等名 上海国際シンポジウム「日中都市史の研究と比較」(上海社会科学院)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 及川 亘
2. 発表標題 佐竹義宣と鷹狩
3. 学会等名 あきたスマートカレッジ（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 及川 亘
2. 発表標題 現場監督する大名 多久家文書にみる公儀普請
3. 学会等名 多久家文書を読みなおす2（東京大学史料編纂所共同利用・共同研究拠点特定共同研究共同研究「近世初期大名家における大身家臣史料群の研究資源化」プロジェクトグループ成果報告シンポジウム）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 及川 亘
2. 発表標題 佐賀藩鍋島家家老「多久家文書」の慶長十五年名古屋城普請関係史料
3. 学会等名 天下普請科研究研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小宮木代良
2. 発表標題 松平忠直事件に関わる史料の成立と伝来
3. 学会等名 福井県文書館講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小宮木代良
2. 発表標題 明清交替情報と佐賀藩の長崎番役
3. 学会等名 多久家文書を読みなおす2（東京大学史料編纂所共同利用・共同研究拠点特定共同研究共同研究「近世初期大名家における大身家臣史料群の研究資源化」プロジェクトグループ成果報告シンポジウム）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 金子拓
2. 発表標題 佐竹家と大坂の陣 佐竹義宣の一番長い日
3. 学会等名 あきたスマートカレッジ（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 森下徹
2. 発表標題 萩藩の藍専売と阿州藍売
3. 学会等名 鳴門市学会2017年度大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計17件

1. 著者名 及川 亘 編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学史料編纂所	5. 総ページ数 188
3. 書名 東京大学史料編纂所研究成果報告「近世統一政権の成立と天下普請の展開」	

1. 著者名 石津裕之・及川亘・小宮木代良・佐藤孝之 編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学史料編纂所	5. 総ページ数 204
3. 書名 東京大学史料編纂所研究成果報告「坊所鍋島家文書未刊分 鍋島道虎関係」	

1. 著者名 黒嶋 敏	4. 発行年 2020年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 256
3. 書名 天下人と二人の将軍	

1. 著者名 黒嶋 敏	4. 発行年 2021年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 240
3. 書名 海の武士団	

1. 著者名 吉田 伸之、森下 徹	4. 発行年 2020年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 196
3. 書名 全体史へ - 山口啓二の仕事	

1. 著者名 石津 裕之 共著(福田 千鶴、藤實 久美子 編)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 488
3. 書名 近世日記の世界	

1. 著者名 金子 拓	4. 発行年 2019年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 234
3. 書名 信長家臣明智光秀	

1. 著者名 金子拓	4. 発行年 2020年
2. 出版社 戎光祥出版	5. 総ページ数 111
3. 書名 長篠の戦い 信長が打ち砕いた勝頼の“覇権”	

1. 著者名 黒嶋 敏(編著)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 296
3. 書名 戦国合戦 大敗 の歴史学	

1. 著者名 及川亘、大平直子、志水雅代、小宮木代良、松田和子、佐藤孝之	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩田書院	5. 総ページ数 143
3. 書名 近世前期の公儀軍役負担と大名家 佐賀藩多久家文書を読みなおす	

1. 著者名 金子拓	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 352
3. 書名 長篠合戦の史料学	

1. 著者名 金子 拓	4. 発行年 2018年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 300
3. 書名 鳥居強右衛門	

1. 著者名 及川亘、黒嶋敏、高橋 慎一郎、千葉 敏之、加藤玄、岩本馨、金沢百枝、横手義洋	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 256
3. 書名 移動者の中世	

1. 著者名 金子 拓	4. 発行年 2017年
2. 出版社 淡交社	5. 総ページ数 192
3. 書名 戦国おもてなし時代	

1. 著者名 金子 拓	4. 発行年 2017年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 208
3. 書名 織田信長 不器用すぎた天下人	

1. 著者名 黒嶋 敏	4. 発行年 2018年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 296
3. 書名 秀吉の武威、信長の武威	

1. 著者名 黒嶋敏、屋良健一郎	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 360
3. 書名 琉球史科学の船出	

〔産業財産権〕

〔その他〕

名古屋城調査研究センター・熊本大学永青文庫研究センター主催、本研協力のシンポジウム「史料が語る 名古屋城石垣普請の現場」（於名古屋銀行協会会館）の動画
<https://www.youtube.com/playlist?list=PLokMDHSMdjvR17m-WZVRaYuuRHHnWsoId>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	金子 拓 (Kaneko Hiraku) (10302655)	東京大学・史料編纂所・准教授 (12601)	
研究分担者	黒嶋 敏 (Kuroshima Satoru) (90323659)	東京大学・史料編纂所・准教授 (12601)	
研究分担者	小宮 木代良 (Komiya Kiyora) (90186809)	東京大学・史料編纂所・教授 (12601)	
研究分担者	石津 裕之 (Isidu Hiroyuki) (50812674)	東京大学・史料編纂所・助教 (12601)	
研究分担者	森下 徹 (Morisita Toru) (90263748)	山口大学・教育学部・教授 (15501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	佐藤 孝之 (Sato Takayuki) (30170757)	東京大学・史料編纂所・教授 (12601)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	立石 了 (Tateishi Satoru)		
研究協力者	山本 一夫 (Yamamoto Kazuo)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関